

第 45 章

3 ニーファイ 23 - 26 章

はじめに

3 日間にわたる教導の業の 2 日目、救い主はイザヤとマラキの預言を是認し、それらを説き明かされた。主は、イザヤの預言は「イスラエルの家に属するわたしの民について、すべてのこと」に言及していると言われた（3 ニーファイ 23：2）。イエス・キリストは聖文の記録が正確であるかを自らお調べになり、復活についてのサムエルの預言の成就と、マラキの言葉を書き加えるように命じられた（3 ニーファイ 24：1；26：1 - 2 参照）。マラキの言葉は、^{しゅうぶん} 什分の一の律法に伴う祝福と、再臨に備えて終わりの時に預言者エリヤが果たす役割について明らかにしている。

主はわたしたち一人一人に聖文と預言者の書を調べるように命じられた（3 ニーファイ 23：5 参照）。救い主は「これらの聖文が、後の時代の人々に伝えられること」は知恵にかなっていると宣言された（3 ニーファイ 26：2）。すべての末日聖徒には聖文を熱心に調べる義務がある。聖文と預言者の書をただ読むのではなく熱心に調べるとはどのような意味であるかについて考える。

注解

3 ニーファイ 23：1 「イザヤの言葉はまことに偉大……である」

・救い主は、イザヤの預言は「わたしの民について、すべてのこと」（3 ニーファイ 23：2）に言及していると教えておられ、その中では神の計らいが驚くほど広い範囲で採り上げられている。救い主はイザヤの預言を是認し、「イザヤの言葉はまことに偉大……である」と宣言された（3 ニーファイ 23：1）。モルモン書ではイザヤ書の 20 以上に及ぶ章が引用されており、その最後の引用が 3 ニーファイ 22 章に記されている。救い主が御自分の話に耳を傾けている者たちに対して、預言者イザヤが書いたものを調べるように特に命じておられる点に注意する（3 ニーファイ 23：1 参照）。イザヤ書がモルモン書やほかの聖文で非常に頻繁に引用されているのも当然のことである。

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は、イザヤの預言が担う独特かつ重要な役割と、主がイザヤの言葉を残された理由を強調して次のように述べている。

「イザヤは新約聖書で最も頻繁に引用されている預言者である。主御自身、イザヤの言葉を 7 回引用しておられ、使徒たちはさらに 40 回引用している。加えて、イザヤの言葉を部分的に引用したり、言い換えたりしている箇所が 90 か所ある。

イザヤは教義と聖約で最も頻繁に引用されている預言者である。66 か所でイザヤの 31 の章が引用されていること

は、この偉大な預言者の書が並外れて重要なものであることを裏付けている。

以上のすべてから、主は目的があってイザヤの言葉を残されたということが確かに分かる。」（*Let Not Your Heart Be Troubled* [1991 年], 280）。

・注意 —— イザヤに関して、またイザヤ書を研究し理解する方法について、詳しくは 1 ニーファイ 20 - 21 章の注解（40 - 42 ページ）および 2 ニーファイ 12 - 16 章の注解（70 - 71 ページ）を参照する。

3 ニーファイ 23：1 - 5 聖文を調べる

・主は聖徒たちに、聖文をただ読むのではなく、調べるように命じておられる。人は聖文を調べる時、何かを発見しようとして注意深く吟味したり、真剣な研究と調査によって徹底的に探究したりする。聖文を調べることはまた、思いにふけり（ヨシュア 1：8 参照）、研究し（2 テモテ 3：15；教義と聖約 26：1 参照）、心に留め（1 ニーファイ 15：25 参照）、深く考える（2 ニーファイ 4：15 参照）ことを意味している。聖文に加えて、救い主はわたしたちに預言者の言葉を調べるように命じられた（3 ニーファイ 23：5 参照）。



© 1999 プライアント・リベンジストン

3 ニーファイ 23：1 - 5

主はイザヤが書いたものについて何と言っておられるか。聖文と預言者の書を調べることにはどのような価値があるか。

・預言者ジョセフ・スミス（1805 - 1844 年）は聖徒たちに、真理について独自の^{あかし}証を受け、神から直接の指示を受けるために、聖文を調べるように勧めている。「聖文を調べなさい。書物として公にされている啓示を調べ、あなたに真理を明らかにしてくださいよう御子イエス・キリストの名により天の御父に願ひ求めなさい。疑わずに主の栄光にひたすら目を向けてこれを行うならば、天父は聖なる御^{みたま}霊の力によって皆さんにこたえてくださるであろう。皆さんは他人の力でなく、自分で知ることができる。そして神の知識について人に頼らなくて済むようになるであろう。また、推測する

必要もなくなるであろう。自分たちを創造された御方である天の御父より指示を受けるとき、人は天の御父が自分たちをどのように救われるかを知るからである。重ねて言う。聖文を調べなさい。預言者の書を調べ、それらのうち皆さん……にかかわりのあるものを学びなさい。」(History of the Church, 第1巻, 282)

●聖文を調べることは最初は難しいかもしれないが、ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910 - 2008 年)は、聖文を真剣に研究する人は思いが照らされて霊が高められると約束している。「聖典を読むことが強調されたことに感謝しています。聖典を読むことが義務ではなく楽しみとなり、皆さんが神の御言葉を夢中になって読むようになることを望んでいます。聖典を読むにつれて、思いが照らされ、霊が高められることを約束します。最初は退屈に思えるかもしれませんが、神の御心を知り、御言葉を味わうすばらしい経験となるでしょう。」(「内なる光」『聖徒の道』1995 年 7 月号, 107)

●大管長会のヘンリー・B・アイリング管長は、あまりに急いで聖文を読むとき、わたしたちは聖霊から教えを受ける機会を逃していると述べている。

「あなたが毎日聖文を研究し、深く考えていれば、聖霊は何を話すべきかをあなたに知らせてくださいます。聖文の言葉が聖なる御霊を招くのです。……毎日聖文を研究することによって……この祝福を受けることができます。……

聖文の言葉を読むだけでなく、研究することによって神の言葉を大切に蓄えるのです。章全体の上っ面を急いで読むよりも、短い章句について深く考える読み方の方がはるかに養いを受けることができます。聖霊が神の御言葉をわたしたちに大切に蓄えさせてくださるからです。」(『聖徒の道』1998 年 1 月号, 96 - 97)

3 ニーファイ 23:6 - 13 聖文の記録が正確であることの重要性

●神と神がわたしたちに用意してくださった計画について、わたしたちは聖文から知識を得る。したがって、聖文の記録が正確で完全なものであることはきわめて重要である。3 ニーファイ 23:6 - 13 には復活についてのサムエルの預言が成就したことが記されているが、これは記録から漏れていたため、救い主が記録に加えるように命じられたものである。

3 ニーファイ 24:1 「御父がマラキに与えられた御言葉」

●救い主はマラキの預言の重要性を強調し、マラキの言葉の一部を御父が語られたとおりにアメリカの民に向けて引用さ



れた(3 ニーファイ 24:1 参照)。預言者マラキとはどのような人物だったのだろうか。マラキは旧約の預言者であり、紀元前 430 年ごろに預言し、記録を残した。マラキとは、「わたしの使者」という意味であり、その預言の最初の部分は「神権を持つ者に向けて話しており、彼らが神への務めをなおざりにしていることを叱責している。次の部分(2:10 - 4:6)では民に向けて語っており、聖約によらない結婚、聖約によって結婚した妻との離婚、および什分の一を納めていないことを非難している。……忠実な者に対して、主は彼らを心にかけてくださっており、不従順な者は主が来られる日にくじかれるという確信をもって、忠実であり続けるようにと励ましている。」(Bible Dictionary, "Malachi," 728) マラキのメッセージの後半部分では、什分の一の律法に従うことによってもたらされる祝福と、再臨に備えて終わりの時に預言者エリヤが果たす特別な役割が宣言されている(3 ニーファイ 24 - 25 章参照)。

3 ニーファイ 24:1 主は「突如主の神殿に来る」

●十二使徒定員会のダリン・H・オックス長老は、「聖文を繰り返し読む理由〔の一つ〕は、聖文に記されている預言や教義の多くが複数の意味を持ち」「その成就も複数のに及ぶ」ためであると教えた(“Scripture Reading and Revelation,” Ensign, 1995 年 1 月号, 8)。「主……は、突如主の神殿に来る」(3 ニーファイ 24:1)という言葉もその一例である。この預言は、現在の神権時代の初期、1836 年 4 月 3 日に主がカートランド神殿に御姿を現されたときに部分的に成就した(教義と聖約 110:1 - 10 参照)。そして救い主が御自分のいずれかの神殿に来られる度に成就する。さらに、再臨の一部として、地が悪から清められて日の栄えの住まいとなるときにも成就する(教義と聖約 88:25 参照)。そのようにして、地は主の神殿と呼ばれるにふさわしくなるのである。

3 ニーファイ 24:2 精錬する者の火と布さらしの灰汁^{あく}

• マラキはメシヤの来臨について、「精錬する者の火のようであり、布さらしの灰汁のようである」という力強い象徴的表現を用いて描写した(3 ニーファイ 24:2)。精錬する者とは、「自然界においてかすと混じり合った状態で見つかる貴金属をかすから分離する者である。その作業の一部として、かたまりを流動体の状態にするために高熱を用いることから、『精錬する者の火』という言葉がある。」(Bible Dictionary, “Refiner,” 760)

救い主は精錬する者のような働きをされる御方である。十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老(1915 - 1985 年)は、次のように説明している。「主の使命は、人の魂を洗い清め、汚れを取り、精錬し、かすの混じっていない純粋な状態で御父の王国に帰れるようにすることである(3 ニーファイ 27:19 - 21)。主の清めの力は『精錬する者の火のようであり』、世を裁くために来られるあの大きな日に『主は銀を精錬し清める者として座に着〔か〕れる。』(マラキ 3:2 - 3; 3 ニーファイ 24:2 - 3; 教義と聖約 128:24)」(Mormon Doctrine, 第2版 [1966 年], 624)

布さらしの仕事は、灰汁を用いて「衣類の汚れを落とし漂白することであった。」(Bible Dictionary, “Fullers,” 676) イエス・キリストの贖罪^{しよくざい}は「布さらしの灰汁」のような働きをし、わたしたちを罪から清め、裁きの座で清く染みのない状態で立てるように備える。

3 ニーファイ 24:5 やもめと父のいない子供を虐げる者

• 夫を亡くした人と父親のいない子供に心を配らないことに対して、神はわたしたちに責任を負わせられる。トーマス・S・モンソン大管長は、夫を亡くした人が主にとってどれほど大切な存在であるかについて次のように述べ、わたしたちには彼女たちに仕える必要があると語っている。

「この『やもめ』という言葉は、救い主にとって非常に重要な意味があったようです。救い主は弟子たちに、律法学者の行いに気をつけるように言われました。彼らは長い衣を着て長い祈りをする事で義人を装い、一方でやもめたちの家を食い倒すのです [ルカ 20:46 - 47 参照]。……

預言者ジョセフ・スミスに主は言われました。『倉は教会員の奉献によって維持しなければならない。そして、やもめと孤児を扶養しなければならない。貧しい者も同様である。』[教義と聖約 83:6] ……

食物や衣服、住む場所にさえ事欠いているかもしれません。それらのものを提供しましょう。そうした贈り物 [を必要としているやもめは、たいていいつでもいます]。……

次のことを心に留めましょう。葬儀の花がしばみ、友人たちの弔問が思い出となり、ささげられた祈りと語られた言葉が心の片隅に消えるとき、彼女たちは悲しみに加え、しばしば孤独感にさいなまれるのです。小さな子供たちの笑い声はなく、10 代の若者たちの活気は消え、伴侶^{はんりよ}の優しい思いやりはもうありません。時計の音は大きく聞こえ、時はゆつくりと過ぎ、周囲の壁は牢獄^{ろうごく}にいるような気持ちにさせます。」(『リアホナ』2003 年 8 月号, 4 - 5)

3 ニーファイ 24:8 - 12

什分の一^{じゅうぶん}を納める人にはどのような祝福が約束されているか。

3 ニーファイ 24:8 - 12 什分の一とささげ物^{じゅうぶん}

• 什分の一の律法に従う人は神を信じる信仰を示す。この律法に従順であることによって、3 ニーファイ 24:10 - 12 で述べられている祝福が与えられる。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、どのような状況にあらうとも教会のすべての会員が什分の一の律法に従うべきである理由として、5 つのことを述べている。

「富める者も貧しい者も、または教会員生活の長い人も改宗したばかりの人も皆、什分の一と献金を忠実に納めなくてはならない理由について、5 つお話ししたいと思います。

まず、子や孫たちのために什分の一と献金を納めてください。……教会で受ける祝福の多くは、親や子供、孫たちの世代の人々が教会に納める什分の一と献金のおかげである [る] ことを、子供たちに教えましょう。……

第2に、この戒めを守る人に約束されている祝福を正当に求めるために、什分の一を納めてください。……

第3に、物を所有することや世俗的な富を築くことが、皆さんにとって最も大切な目標ではないことを表明するため、什分の一を納めましょう。……

第4に、什分の一と献金は、神が当然お受けになるべきものであるため、正直かつ誠実に納めましょう。……

これは、什分の一と献金を納める5番目の理由へとつながっていきま^{あわ}す。わたしたちは惜しみなく憐れみをもって与えてくださる天の御父に対



し、愛を個人的に示すために、それらを納めるべきです。神はその恵みによって、飢えている人々にパンを、貧しい人々に衣服を与えてくださいます。人生の様々な時において、わたしたちも皆、物質的であれ、霊的であれ、恵みを受けてきました。」(『リアホナ』2002年1月号, 37-39)

• ハロルド・B・リー大管長 (1899-1973年) は、什分の一を納めることによって受けられる祝福の一つについて次のように述べている。「この原則に従うならば、天の窓が開かれて、収める余地がないほどの祝福が注がれると約束されています。天の窓が開かれるとは、もちろん、進んでそのような犠牲を払う者に与えられる神からの啓示を意味しています。」(『The Teachings of Harold B. Lee, クライド・J・ウィリアムズ編 [1996年], 206)

• ヒーパー・J・グラント大管長 (1856-1945年) は、神は什分の一の律法に従う人を祝福し、知恵を増し加えてくださると証している。「わたしは証します。そしてこの証が真実であることを知っています。神に対して完全に正直であって、什分の一を納めてきた男女は、……残りの10分の9を上手に利用する知恵を神から授かってきました。納めた残りは彼らにとってより大きな価値を持つものとなり、主に対して正直でなかった場合よりも、その残りですらに多くのことを成し遂げています。」(Conference Report, 1912年4月, 30)

• ダリン・H・オックス長老は、什分の一を納めるという戒めに従うかどうか決断を迫られたときに人が口にする言葉について、次のように述べている。

「『什分の一を納める余裕がない』と言う人がいます。その一方で、主の約束を信じる人は、『什分の一を納めずにはやっていけない』と言うのです。

しばらく前、外国で教会の指導者たちに向けて話をしたときのことで。什分の一について話していたとき、わたしは言うつもりがなかったことを自分が話しているのに気づきました。わたしは、その国では主の約束に頼り什分の一を完全に納めている人が少ないことを、主が嘆いておられると言いました。聖約の民がこの大切な戒めを守らなければ、主は物質的、霊的な祝福を止めてしまわれると警告しました。

わたしは、その指導者の方々がステーキや地方部の会員

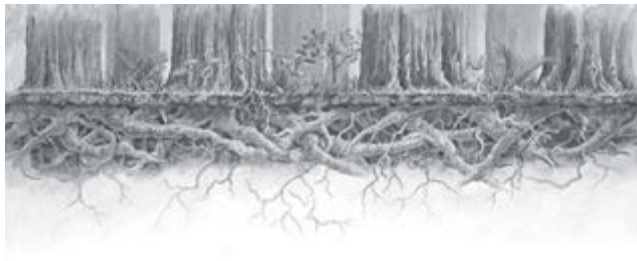
にこの原則を教えてくれたものと期待しています。什分の一の律法と、それに従う人に与えられる祝福は、すべての国の主の民に当てはまります。わたしは会員の皆さんが、什分の一を完全に納めてふさわしくなり、主の祝福にあずかれるように願っています。」(『聖徒の道』1994年7月号, 37参照)

3 ニーフアイ 24:16-18 「わたしがわたしの宝石を集める」

• わたしたちはどのようにして主の宝石になるのだろうか。宝石とは高価な石であり、市場ではその本来の価値、または付帯的な価値によって値積もりがされる。マラキヤ他の預言者たちは宝石という比喩的表現を用いて、「主を畏れ」る者、すなわち主に敬意を示し、主の儀式を守り、その名を「覚えの書」に記される者について述べている(3 ニーフアイ 24:16-18。教義と聖約 60:4; 101:3; 出エジプト 28:15-21も参照)。したがって、主の宝石になるには、この世でどのような圧力を受けようとも、すべての儀式にかかわる聖約を忠実に守らなければならない。そうすることによって主を愛していることを示すならば、覚えの書に名前が書き記されるであろう。

3 ニーフアイ 25:1 「根も枝も」

• 「すべて高ぶる者と悪を行う者」は焼かれて根も枝も残らないとはどういう意味だろうか(3 ニーフアイ 25:1)。この言葉は、3 ニーフアイ 25章の主題に関連している。根は自分の両親や先祖、枝は自分の子供や子孫であると考え。根や枝と結ばれるためには、わたしたちは神殿の儀式を受けなければならない。主は、家族が根も枝もすべてそろうことを可能にする神権の鍵を回復するために、再臨の前にエリヤを遣わすと言われた。1836年には結び固めの力が回復され、その力によって、家族を永遠につなぐ方法が備えられている(教義と聖約 110:14-16; 128:18参照)。しかし、高ぶる者と悪を行う者は自分の家族と結び固めの祝福から絶たれ、焼き尽くされて根(先祖)も枝(子孫)も残らないであろう。



ジェフリー・R・ホランド長老はこの概念について次のように語っている。「エリヤは地上で結ぶ儀式を天でも結ぶ

結び固めの力を回復した。……そのつながりがなければ、どのような家族のきずなも永遠にわたって存続することはなく、実際のところ、人の家族は永遠に『根〔先祖〕も枝〔子孫〕も』ないままに残されるであろう。』(Christ and the New Covenant [1997 年], 297 - 298)

3 ニーファイ 25:2 「牛舎の中の子牛」

・「牛舎の中の子牛」の説明については、1 ニーファイ 22:24 の注解 (44 ページ) を参照する。

3 ニーファイ 25:5 - 6

「大いなる恐るべき日」の前に来るのはだれか。
その人物は何をするか。

3 ニーファイ 25:5 - 6 エリヤは心を向けさせる

・1823 年 9 月 21 日の夜、天使モロナイは最初の訪れの際に、預言者ジョセフ・スミスに対してマラキ 4:5 - 6 書の預言を「言われているのとは少し異なる」言葉で引用した (ジョセフ・スミス—歴史 1:36 - 39。教義と聖約 2 章も参照)。この預言は、1836 年 4 月 3 日にカートランド神殿で、エリヤがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに現れて神権の鍵を回復したときに成就した (教義と聖約 110:13 - 16 参照)。この最初の訪れ以降、自らの務めを終える時に至るまで、預言者ジョセフ・スミスはマラキの預言とエリヤの使命について絶えず語り続けた。

預言者として教義と聖約 128:17 - 18 で与えている説明に加えて、預言者ジョセフ・スミスは次のように教えている。「エリヤは神権の鍵を持っていた最後の預言者であり、すべての儀式を義のうちに受けられるように、最後の神権時代の前に神権の権能を回復し鍵を渡すであろう。救い主はこの祝福を受ける権能と力を持っておられたが、レビの子らはあまりにも偏見を持っていた。主は『そして主の大いなる恐ろしい日の前にわたしは預言者エリヤを遣わす』と語られ、同じ内容を繰り返された。なぜエリヤを遣わすのであろうか。エリヤは神権のすべての儀式を執行する権能の鍵を持っているからであり、権能が与えられなければ、儀式を義のうちに執行することができないのである。』(History of the Church, 第 4 巻, 211)

・預言者ジョセフ・スミスはまた、向けるという言葉の意味と、それがわたしたちの生活にどのように当てはまるかについて次のように説明している。

「ここ〔マラキ 4:5 - 6〕で使われている『向ける』という言葉は、『つなぐ』、すなわち『結び固める』と訳されるべきである。では、この重要な使命の目的は何であろうか。あるいはどのようにして果たされるのであろうか。鍵が渡され、エリヤの霊が来て、福音が確立され、神の聖徒たちが集められ、シオンが築き上げられ、聖徒たちが救う者としてシオンの山に登らなければならない。

しかし彼らはどのようにしてシオンの山において救う者となるのであろうか。神殿を建て、バプテスマフォントを築き、亡くなったすべての先祖のために行ってあらゆる儀式を受け、バプテスマ、確認、洗い、油注ぎ、聖任と結び固めの力をその頭に受けることによってである。そして先祖が第一の復活に出て来て、ともに栄光の座に上げられるように、彼らを贖うのである。ここに先祖の心を子孫に、子孫の心を先祖につなぐ鎖があり、これによってエリヤの使命が果たされるのである。』(History of the Church, 第 6 巻, 184)

3 ニーファイ 26:2 「あなたがたの持っていないこれらの聖文」

・イエス・キリストは聖文の記録が正確であることの重要性を強調された。レーマン人サムエルの預言の成就が聖文の記録に加えられたことに加えて (3 ニーファイ 23:7 - 13 参照)、救い主は御父の命令に従い、アメリカの民に「あなたがたの持っていない……聖文」を与えられた (3 ニーファイ 26:2)。主は、リーハイがエルサレムを去ってから 200 年近く後の人物である旧約の預言者マラキが書いたものを引用された。マラキの時代はリーハイがエルサレムを去ってから 200 年後のことであるから、その教えは真鍮の版には載っていなかったであろう。



3 ニーファイ 26:6 - 12 信じるならば、もっと大いなることが明らかにされる

・スペンサー・W・キンボール大管長 (1895 - 1985 年)

は、もっと大いなることが明らかにされる前に、すなわち、新たな聖文を得る前に、わたしたちはすでに明らかにされているものを読み、信じなければならないと教えている。「長年にわたり多くの人々から次のような質問を受けてきました。『わたしたちがモルモン書の記録の残りの部分を手にするのは、いつになると思いますか。』わたしはそれに対してこう言いました。『お集まりの皆さんの中でどれくらいの方々が、版の封じられた部分を読みたいと思っておられますか。』するとほとんどの場合 100 パーセントの人が読みたいと答えます。そこでわたしは同じ会衆に尋ねます。『皆さんの中でどれくらいの方々がすでに開かれている部分を読み終えましたか。』モルモン書の封じられていない部分を読み終えていない人はたくさんいます。わたしたちには、手に入らない、何かあっと驚くようなものを求める傾向があります。次元の低い律法で生活できていないうちから、より高度な律法で生活することを望む人々を数多く見てきました。』(The Teachings of Spencer W. Kimball, エドワード・L・キンボール編 [1982 年], 531 – 532)

3 ニーファイ 26 : 19 「彼らは、互いに教え、互いに仕え合った」

• これこそすべての神権時代における主の教会の規範である。すなわち、主の聖約の民は王国の教義を互いに教え合い、福音のきずなで結ばれた仲間として互いに仕え合う。主

の民は一つの大きな家族だからである。

理解を深めるために

- 標準聖典を読むことに毎週どのくらいの時間と努力を注いでいるだろうか。そのうちで「調べている」と見なすことができるのはどれくらいだろうか。
- これまでどのような方法で自分の先祖に心に向けてきただろうか。家族歴史と神殿の業を助けるために、ほかにどのようなことができるだろうか。

割り当ての提案

- 聖文と現在の預言者が最近の大会で行った説教を定期的に調べることができるように計画を立てる。
- 3 ニーファイ 24 : 8 – 12 で述べられている祝福のうち、^{じゅうぶん} 什分の一の律法に従った結果として自分の人生において成就したものや、ほかの人の人生において成就するのを見たものを挙げる。什分の一の律法に忠実に従う目的と、それによってもたらされる祝福について簡単な文章を書く。自分の意見をだれかと分かち合う。
- 神殿に提出するために、亡くなった先祖の名前を集めて整理する。彼らのために神殿の儀式が行われるように手配する。可能であれば、この神殿の業に参加し、すべての儀式を終える。